

大津皇子の被死らしめられし時に磐余の池の堤にして涕を流して作りませる歌一首					
百傳	磐余池余	鳴鴨乎	今日耳見哉	雲隠去牟	万葉集 卷三 416 大津皇子
ももつたふ	磐余の池に	鳴く鴨を	今日のみ見てや	雲隠りなむ	
ももつたふ	いはれのいけに	なくかもを	けふのみみてや	くもかくりなむ	
(枕詞)	磐余の池に	鳴く鴨を	今日最後に見て	私は死んでいくのだろうか	
https://kochi-esc.sakura.ne.jp/wordpress/%e4%b8%87%e8%91%89%e3%81%ae%e5%9c%b0%e5%ad%a6/					